

地震

「町民一人一人が前に
進んでいけるように」



地震から2カ月が過ぎました。流通も回復し、余震も少しずつではありますが落ち着きを見せ、町は一見日常を取り戻したように見えます。しかし、地震は確実に、いたるところに爪痕を残しているのです。

今回の地震では、御船町でも2人の尊い命が失われ、多くの人が帰る家を失っています。復旧できていないライフラインもあります。町民一人一人が震災から立ち直り、自立に向けて前に進んでいけるように、町は全力で取り組みます。

しかし、本当に必要なことはみんなが手を取り合って協力していくことです。一人ではできないことでも、みんなが協力し合えば達成できます。みんなで頑張りましょう！

オール御船！
御船町長
藤本正幸

災害支援と

現在の動き

本町には未だおよそ250人が避難所生活を余儀なくされています。そのようななか、6月4日、安倍晋三内閣総理大臣と蒲島郁夫熊本県知事が、御船町の避難所を視察に訪れました。カルチャーセンターに避難していた町民一人一人にお見舞いの言葉をおくった安倍総理。町の再建には国県の支援が不可欠です。今後も町は国県に要望を行います。



▽県内外からの支援

4月の地震発生以降、町は多くの団体から支援を受けています。これまで、県の要請を受け災害派遣された自衛隊、熊本県、九州・山口9県災害時相互応援協定を結んでいる自治体（御船町は山口県が担当）のほか、宮城県、東京都や島根県など、全国各地の自治体や団体から職員が派遣されてきました。

派遣職員が従事されている職務は、▽避難所の運営▽罹災証明書発行に関わる家屋調査や発行事務▽生活再建に係る相談窓口▽道路の復旧や応急仮設住宅の建設に伴う業務など、さまざまです。

▽避難所の集約

避難者のスポーツセンターへの集約が進んでいます。各避難所に滞在していた人は「自宅が住める状態ではない」「余震が恐ろしい」「水道が復旧していない」などさまざまな理由で避難していましたが、徐々に余震が収まってきたことで、各避難所の人数が減り、また、小中学生が体育館を使用できるようにするため、各避難所で説

明会を行い、集約を始めました。避難所は仮設住宅の入居などが完了するまで開設される予定です。

◀スポーツセンター避難所



▽応急仮設住宅の建設

家に住むことができなくなった人の生活基盤となる、仮設住宅の建設が進んでいます。建設予定は300戸程度。町の方針は、「各地区の子どもたちが以前と同じように学校に通えるよう、地区ごとに住宅を建設」すること。6月10日現在、▽木倉仮設団地▽高木仮設団地▽旧七滝中仮設団地▽七滝仮設団地▽田代東部仮設団地▽小坂仮設団地▽玉虫仮設団地▽ふれあい広場仮設団地▽南木倉仮設団地▽今城仮設団地▽甘木仮設団地▽滝川仮設団地▽陣仮設団地の建設が決まっており、完成に伴い、仮設住宅申込者から順次入居者を決定する予定です。（右前は仮称）

地震を振り返るつどい

5月14日、町スポーツセンター前広場で、YMCA主催の「熊本地震1ヵ月経過のつどい」が開催され、町民や消防団、町長など約100人が参加しました。避難所で生活していた司会の井芹美知子さんは「みなさんと振り返る時間になれば」とあいさつ。被災地の写真が流れたあと、ゲストが歌を披露。地震を振り返る言葉を藤本陽向君と森永和典さんが発表した後、地震が発生した21時26分、鐘の音とともに参加者全員で黙とうを捧げました。



1. カルチャーセンター裏口で出迎えた藤本町長らと握手をかわす安倍総理 2. 恐竜博物館交流ギャラリーで物資を仕分けする派遣職員 3. 高木地区で給水支援を行う派遣職員 4. 罹災証明書発行のための家屋調査に従事する派遣職員 5. 地震発生時を振り返る参加者